TOP!CS

令和五年度 甲南高等学校・中学校 育友会 共催 旧制甲南高等学校創立100周年記念行事 文化講演会「ソフィア」

6月12日、神戸ポートピアホテルにおいて、旧制甲南高等学校創立100周年を記念した文化講演会「ソフィア」が開催されました。当日は、山内守明校長による旧制甲南高等学校のこれまでの歴史や歩みに関する講話と元ラグビー日本代表で静岡ブルーレヴズ クラブ・リレーションズ・オフィサーの五郎丸歩さんのご講演がありました。

講話

旧制高校創立100周年について

山内（やまうち） 守明（もりあき） 校長

創立の思いと経緯、そして歩み

2023（令和5）年に創立100周年を迎えた旧制甲南高等学校。その歴史は、1919（大正8）年の旧制甲南中学校に始まり、1923（大正12）年には、中高一貫の7年制甲南高等学校（尋常科4年制、高等科3年制）が開校しました。戦後の学制改革を経て、現在に至ります。

「この世の中を立て直すために、中学校をつくりたい」。平生先生の思いは多くの賛同を受け、旧制甲南中学校の創立に多大な支援が集まりました。創立の日、平生先生は日記に「教育こそが良い社会を創る」「最終の理想といえる人物教育を主とする東洋一の大学の創立計画に一歩進み出ようと思う」と、記されています。人物教育を軸とした大学の創立もすでにお考えでした。また、開校当初から行われていた六甲登山は、現在も学校行事として続いています。

● 尋常科に通う甲南生

● 校内の大食堂

中高一貫の7年制甲南高等学校の開校は、高校受験の勉強で疲労困憊する中学生から受験の弊害をなくし、一人ひとりの個性を尊重する教育を実現するためでした。その第1回卒業生は東京帝国大学など志望どおりの大学へ入学が許可されました。平生先生は、理想の教育を追求すべく世界の教育機関を視察。イギリスのパブリックスクールで生徒と教師が大食堂で昼食をともにする姿に感心し、私財で校内に大食堂を作られました。「真の教育というものは、人格の修養と健康の増進を第一義とし、これにそなへるに各人が享けたる天賦の特性を啓発指導するにあり」。平生先生の志は、現在も変わらぬわが校の方針です。

人創りのための教育目標

甲南高等学校・中学校は、徳・体・知の調和のとれた、人間性豊かで自立心を備えた「世界に通用する紳士」を育成することが教育目標です。「学びに集い正志く強く共に成長する」を100周年教育ビジョンとして掲げ、教師、生徒だけでなく、卒業生、保護者とともに成長していきたいと願っています。学園として、次の世紀に引き継ぐ学校として、より良い甲南をつくっていくために、これからも一緒にがんばりましょう。

講演

日々の努力、夢への近道

静岡ブルーレヴズ
クラブ・リレーションズ・オフィサー　五郎丸（ごろうまる） 歩（あゆむ） 氏

感謝と情熱を大切にした、ラグビー人生

3歳からラグビーを始め、早稲田大学ラグビー部で3度日本一を経験し、卒業後はヤマハ発動機ジュビロにプロ契約で入団。このチームを選んだ理由は一番に声を掛けてくださったことへの感謝と、優勝したことのないチームで勝ってみたいという強くて熱い思いがあったからです。そして2015年2月、創部以来、初めての日本一を獲得しました。同年、日本代表メンバーとして挑んだラグビーW杯イングランド大会で、強豪国である南アフリカに逆転勝利。歴史的快挙を成し遂げました。勝ったことはもちろんうれしかったのですが、真の目標は「ラグビーを憧れの存在に戻すこと」と「2019年W杯日本大会の成功」。だから、2019年W杯の観客席が赤と白のジャージを着た観客でいっぱいになったのを見たときが、最も感動した瞬間でした。

● 生徒から花束を受け取る五郎丸さん。

夢を実現させるための、努力の仕方と考え方

ラグビーW杯2015イングランド大会までの4年間、チームは「日本ラグビーの歴史を変えよう」と目標を掲げ、練習を重ねました。「現在を変えない限り、未来は変わらない。今、与えられた時間をこなせないと未来はついてこない」というジョン・カーワン前ヘッドコーチのことばを胸に、本事にしたのは「準備」「多様性」「主体性」の3つです。

1つ目の「準備」は、キックのフォームや歩数など、コントロールできることは徹底的にすること。2つ目の「多様性」は、国籍や言語、価値観の違う仲間を認め合うこと。3つ目の「主体性」は意志をもつこと。2015年の南アフリカ戦の最後のトライですが、実はヘッドコーチからはペナルティーゴールで同点をねらえと指示が出ていました。しかし、キャプテンはトライで逆転をねらうという強い意志でスクラムを選択。結果、勝利を果たしたのです。前ヘッドコーチのことばどおり、与えられた時間をひたむきにこなした結果、強豪国の南アフリカに勝利するという未来がついてきました。それを実感したときの気持ちが「これは奇跡じゃなく、必然です。ラグビーには奇跡なんてありません」ということばに表れたのです。

生徒との質疑応答コーナーでは 五郎丸さんが質問に答えてくださいました

生徒からの質問
緊張や失敗によって、プレイをコントロールできないとき、どこを見つめ直したら良いですか？

五郎丸さんの回答
「練習内容を精査していけば良いと思います。正しい練習を正しい時間行おう。がんばって苦しい思いをすれば報われるといったマインドは変えていこう」

生徒からの質問
多様性を大事にしつつ、お互いが認め合うためにどうすべきか、工夫したら良いことはありますか？

五郎丸さんの回答
「意見を伝え合うことが大事。言われたくないことや言いたくないことも全部。それがあってこそワンチームになれます」

生徒からの質問
バイスキャプテンとして心がけていたことは何ですか？

五郎丸さんの回答
「私が求められたのはピッチに立ち続けること。いろんなリーダーシップがあるけれど、自分が求められていることを理解して、みんなが納得する行動を取り続けるのがリーダーだと思います。自分を分析して強みと弱みを知ることも大事。弱い部分を周りに任せていくのもリーダーです」

● 生徒の感想 ●

夢をもつだけでは叶わない。そこに近づくには「今」何をすべきなのか。具体的な目標を立てて、動き出し、日々努力することが、大切なのだと思った。（中1）

五郎丸さんのお話はラグビーだけではなく、勉強やその他多くのことに当てはまると思いました。過去や未来を見るのではなくて、今をしっかり受け止めて今をがんばるということは心に響きました。（高3）